

第4章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

沿線の地域特性に関して、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した結果は下記に示すとおりである。対象事業実施区域¹を含む区市²は、方法書と同様とし、東京都内においては、港区、渋谷区、品川区、大田区、目黒区、世田谷区の6区、稲城市、町田市、多摩市、八王子市の4市とした。

4-1 地域特性の概要

東京都は、区部及び多摩地域の内陸部と伊豆諸島及び小笠原諸島等の島しょ部から成る。内陸部は、雲取山（海拔2,017m）、三頭山等の山岳地帯で山梨県・埼玉県と境を接し、東京湾に向かってなだらかに下り、千葉県、神奈川県に囲まれ、東西に細長い形をしている。河川は、その地勢から、概ね西部に源を発して東京湾に注いでいる。その内、一級河川として多摩川水系、荒川水系、利根川水系、鶴見川水系の92河川が、二級河川として15河川が流れている。地形は、西が高く、東の方向へ次第に高度を減じ、また群馬県高崎市から埼玉県飯能市を通して八王子市へ延びる八王子構造線によって、西部の関東山地と東部の関東平野に二分される。

島しょ部を含めた東京都の総面積は約2,189km²であり、この内約38%が森林、約31%が宅地、約4%が農用地となっている。

東京都の気候は、冬季は大陸性高気圧のため、北西ないし西の季節風の影響を受けて乾燥した晴天が多くなっている。また、夏季は太平洋高気圧の圏内に入り、南西の季節風期となり、晴天が多くなっている。東京管区気象台の過去10年間の観測によると、年平均気温は約17℃、月別には約6℃～約28℃で変化し、8月が最も気温が高く、1月が最も気温が低くなっている。年間降水量は、約1,650mmであり、国内の年平均降水量と同程度である。月別の降水量は10月が最も多く、次いで9月、5月となっている。一方、降水量が最も少ないのは1月であり、次いで2月、12月となっている。

東京都の人口は、平成25年1月現在、約12,740千人であり、前年と比較すると約0.4%増加している。市町村別に見ると、対象事業実施区域を含む区市では、世田谷区が約846千人で最も多く、次いで大田区が約678千人、八王子市が約555千人となっている。

東京都の産業別就業者数は、平成22年10月現在、第3次産業が最も多く約84.4%、第2次産業が約15.2%、第1次産業が約0.4%となっている。全国水準と比べ、東京都は第3次産業の割合が高い産業特性を有しており、第1次産業は約0.4%と非常に低い割合となっている。

東京都内には、秩父多摩甲斐国立公園、富士箱根伊豆国立公園、小笠原国立公園の3つの国立公園、明治の森高尾国定公園の1つの国定公園のほか、都立滝山自然公園、都立高尾陣場自然公園、都立多摩丘陵自然公園、都立狭山自然公園、都立羽村草花丘陵自然公園、都立秋川丘陵自然公園の6つの都立自然公園が存在する。また、東京都内陸部には自然環境保全法に基づく自然環境保全地域等はないが、東京における自然の保護と回復に関する条例に基づき48地域約751haの保全地域が指定されている。その内訳は、自然環境保全地域1地域、歴史環境保全地域6地域、緑地保全地域38地域、森林環境保全地域1地域、里山保全地域2地域となっている。その他、28地区約3,572ha

¹ 「対象事業実施区域」：本章のみ「対象事業実施区域」は、方法書と同様に設定して記載した。

² 「対象事業実施区域を含む区市」：地域特性の調査対象範囲は方法書と同様とし、対象事業実施区域に掛かる区市のデータとした。

の風致地区、3 区域約 1,477ha の近郊緑地保全区域、33 地区約 263ha の特別緑地保全地区が指定されている。